

映画村で土日にも扮装バイト

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52) 草津市

はい上がる人

わたしの歩跡

高校卒業後の就職先が決まらず、先生に呼ばれて進路指導室に行ったら「これ、運動関係やぞ。のちのちスポーツ施設を作る会社やわ」と勧められて、面接だけでOKしてもらったんです。初めての新卒採用でした。高校生なりに名前をもらった会社は「たかやま」で、「こんな小さい会社や」と、建設関係の仕事をしている父親(義行さん76)に書類を見せたら、社長の名前を見て「有

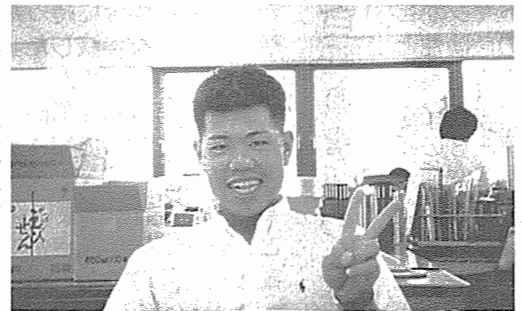
名な人やぞ」とって、実は奥深い会社でした。1985年春、私立比叡山高校を卒業し、大津市の不動産関連会社に入社する。社長だった上田茂行さんは、25歳だった72年に戦後生まれで初めて衆院議員に当選し、1期を務めた。首相になる田中角栄氏(故人)の秘書を務めたこともあった。僕らスポーツ事業部の3人は「遊ぶ人を相手にするんやから遊んどかなあかん。毎日何かするほどの腕前になりまして。

スポーツショップの計画があったって、やったことないテニス担当と言われ、ディスクアウト店でラケットを買って、持ち方も本で覚えて。壁打ちをガンガンして、2年ぐらいしてコーチの養成学校に通って、コーチをするほどの腕前になりました。



会社には内緒で土日に始めた扮装バイト。時代劇のオープンセットの中で、観光客と記念写真を撮る
—京都市右京区の東映太秦映画村で、いずれも本人提供

入社5年、芸能熱再び



入社4年目の1988年8月、社内で

「上田社長が政界復帰を狙い、86年の参院選に自民党公認で立候補することになった」

「土平君、ごめん。この日のこの時間、社長の運転してほしいんやわ」と頼まれ、演説会の道順から全部調べて運転手として県内ずいっといろんな所を巡りましたね。大きなセンチユリとかに乗っていましたわ。元大津市長で現職の山田耕三郎さん(故人)に負けて、会社内が天と地ほど暗くなりましたね。

「仕事の傍ら、カヌー競技も続け、選手・監督として4大会連続で国体に出場した。さすがに芸能活動までは手が出せず、社会人1年目に活動を休んでいた」

カヌーが一段落して気づいたんです。忘れてたことがあった、芸能置きっ放しだったって。すぐに行動する方なんで、次の日に東映京都撮影所(京都市右京区)に電話して「5年前に休ませてほしいと言った土平ですけど、実はまたやりたいんです」。

20歳で結婚して子どももいたんで、東映の所長さんが「家族おるのに絶対やめとき。食べられへんから」納得したいんです。このまま40、50歳になって、やっぱは良かったって思うのが嫌なんです。「仕出し(エキストラ)でも現場はないよ」「何でもいいですからやらせてください」

「東映太秦映画村で侍の格好して一日立っという、観光客と写真を撮る仕事はあるわ」と紹介してくれたんです。

映画村も、ようはやっているんです。会社には内緒で土日に扮装バイト(扮装)を始めて。俳優になれるとは正直思っていないで、しっかり吹っ切った終わり方という気持ちだったんですけど、それがこの世界をスタートするきっかけになるんだね。

【エリア編集委員・大澤重人】
「エリヤ編集委員・大澤重人」

「運はつかむもの」
共感する書き込み

「運はつかむもの」
共感する書き込み

「運はつかむもの」
共感する書き込み

「運はつかむもの」
共感する書き込み